

札幌市立大学空間デザインコースの山田良教授による、空間的療養効果を目的としたアートインホスピタル「風の家」Breathing House」が室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院内のせいてつギャラリー横の一角に設置されている。患者やその家族らの心を癒やしている。

同大学のデザイン学部と看護学部の連携事業と

心癒やす「風の家」

室蘭・せいてつギャラリー横

札幌市立大教授が設置

して、2016年(平成28年)から札幌市内の病院を皮切りに小樽や岩見沢などの病院に設置した。

天井にスチール棒を取り付け、不織布をつり下げている。人が行き交うと風が起き、不織布がふわわりと揺らぎ、目には見えない風を感じる事ができる。光を反射してくれるので、明るい空間をつくり出してくれる。

同大看護学部の定廣和賀子教授は「患者さんや家族はもちろん、普段は忙しい医療従事者の方々にも利用していただきたい。悩みを抱えている人はベンチに座ってひと休みし、気持ちを楽にしてほしい」と話している。

(坂本綾子)

せいてつギャラリー横の一角に設置されている「風の家」Breathing House

